

## 第3回 北陸病虫害研究会

(昭和26年1月10,11日, 於石川農試)

### 講演要旨

#### 福井縣に於ける稻熱病の発生と 氣象との關係について

友 永 富

福井縣の稻熱病についての記録は、明治2年を最初とし、それから降つてはしばらく大發生の史実少く、大正に入つて9, 10, 15年、昭和になつてからは9, 13, 16, 20, 24, 25年と大發生し、だいたい3~4年の周期をもつて發生しているようである。

いまこれらの發生年のうち被害狀況の明らかな昭和9, 13, 16, 24, 25年と稻熱病の不發生年で最豊作だつた昭和14, 22年及び平年(昭和6年から昭和25年までの20ヶ年平均)を、氣温、濕度、降水量、降水日数、日照時数などの氣象要素について比較検討し、稻熱病の發生は如何なる氣象狀況下に多いかを明らかにした。

調査の結果を要約すると、

1) 苗稻熱病 苗代期間はやゝ高温に經過するが苗代後半(5月5半旬以降)になつて低温、多濕、寡照の年に發生が多い。

2) 葉稻熱病 稻熱病といえば直ちに葉稻熱病を指すくらい發生が多いものであるが、大發生年についてみると6月に發生の多い年と7月になつてから大發生をみる事とあるが、何れの場合も5月は氣温が並高目から高目に經過し、6月に發生をみる時は6月殊に第3半旬から第6半旬が低温、多濕、寡照であり、7月に大發生をみる時は7月、なかでも第4半旬から第6半旬にかけて低温、多濕、寡照である。

このような葉稻熱病の發生のすれは、一に梅雨の規模によつて決せられるように考へられる。

3) 稻頭稻熱病 7月から9月上旬にかけて低温で、7月第3半旬から8月第1半旬または8月第6半旬から9月第3半旬が低温、多雨、寡照で、前者のような氣象狀況のときは早稲に、後者の場合は中晩稲に頭稻熱病の發生が多い。

(福井縣農事試験場)